

平成23年度実施協働事業 自己評価報告書

事業名：市民緑地「上谷津ふれあいの森」の維持・管理

団体名：上谷津ふれあいの森を守る会

担当課：環境課

(■事業の評価 ★協働の評価)

■①【事業目的】事業目的が果たしているか

事業目的

- ・解決する地域課題の内容

市民が身近な自然に触れられるふれあいの森の創出

- ・課題解決に対する市民ニーズ（課題として提起する根拠等）

平成21年度和光市総合振興計画市民意識調査では、公園・緑地の整備（満足率1位）等、まちとして緑と水の自然環境に関する市民の満足度、関心度は高い。

自己評価【○】

4年目という事で活動内容にも慣れてきて、どんぐりの小径等範囲が広がってきた

■②【問題解決の手法（事業の内容）】問題解決の手法は適切であったか

問題解決の手法

- ・問題解決の方策

定期的に除草や清掃等の維持・管理を行い、また、草花を植栽する等、1年を通して市民に憩いの場を提供する。

自己評価【○】

1月を除き、毎月定期作業等を行った。

■③【事業の実施体制】実施体制は適切であったか

事業の実施体制

- ・人的体制 各事業 20～25名程度

自己評価【○】

20名前後の会員がほぼ毎日、ふれあいの森の活動を通じて、研鑽を積んでいった。

■④【年間スケジュール】スケジュールは適切であったか

年間スケジュール

4～6月 総会及び役員会、定期作業

7～9月 役員会、定期作業

10～12月 里山研修会、環境学習会、役員会、定期作業

1～3月 役員会、定期作業

自己評価【○】

事業報告書の事業内容より、概ねスケジュールどおりであった。

■⑤【事業継続性】次年度以降も実施すべき事業か

自己評価【○】

評価シート（今後の事業展望）より、「上谷津ふれあいの森」は、平成 24 年度中に拡張の予定もあり、今後さらに地域に親しまれる森づくりが期待される。

★⑥【役割分担】団体と市の役割分担は適切であったか

役割分担

- ・提案団体 市民緑地の清潔、美観及び安全の保持、生態系の保全に配慮した健全な市民緑地の育成、市民緑地の市民の利用の促進、市民緑地の正しい利用マナーの啓発、自然環境を大切にし、親しむ意識の啓発
- ・市 市民・団体との調整・協力、事業についての情報提供や広報、高木剪定等、専門性を伴う作業の実施、その他必要な事務手続き等

自己評価【○】

事業実施前の事前協議の中で作成した役割分担書（契約書添付）に基づき、実施した。

★⑦【協働の必要性】協働により効果が増したか

協働の必要性

市民緑地を適正に維持管理するには、市からの業務委託だけではなく、地域住民中心の活動との協働を図る必要がある。

協働による相乗効果

自然環境の保全、地域活性化、憩いの場の創出、行財政運営の効率化、広報誌等による団体の活動 P R、他団体とのネットワークの構築

自己評価【○】

評価シート（15 市民と行政の協働事業は効果があったか）より、地域住民との協働により、地域特性に応じた森づくりができた。

★⑧【協働の成果】団体・市民・市それぞれに成果があったか

団体 設立目的の達成、広報誌等による団体活動 P R、団体のレベルアップ、他団体とのネットワークの構築

行政 市民緑地の維持管理、市民の利用促進、地域の環境保全リーダーの育成、行財政運営の効率化

地域 憩いの場としての快適性の確保、自然環境の保全

自己評価【○】

評価シート（14 市民サービスは向上したか）より、散策しやすい森の整備がなされた。

★⑨【他団体とのネットワーク（協力、共催等）】他の団体の協力や共催は必要なかったか

市内の緑地で活動している他の市民団体と定期的に研修や意見交換会、人的支援を実施する等して連携を図り、地域全体で緑地を保全していく。

自己評価【○】

ヒアリングシート（広がり）より、他団体との交流及び隣接する土地の地主から相談を受ける等があった。